

by.海鮮堂 漫画25p+CG22p 合計47p...

「そんなあたしを放って他の女と遊びに行くんだ……!」

「言葉でちゃんと言つてよお……!」
「巴さんの処女貰いますって……!」

「○○さん……の所で家事してくれる人を募集してましたよね?」

ヤバイ女性が家に
押し付けてきた話

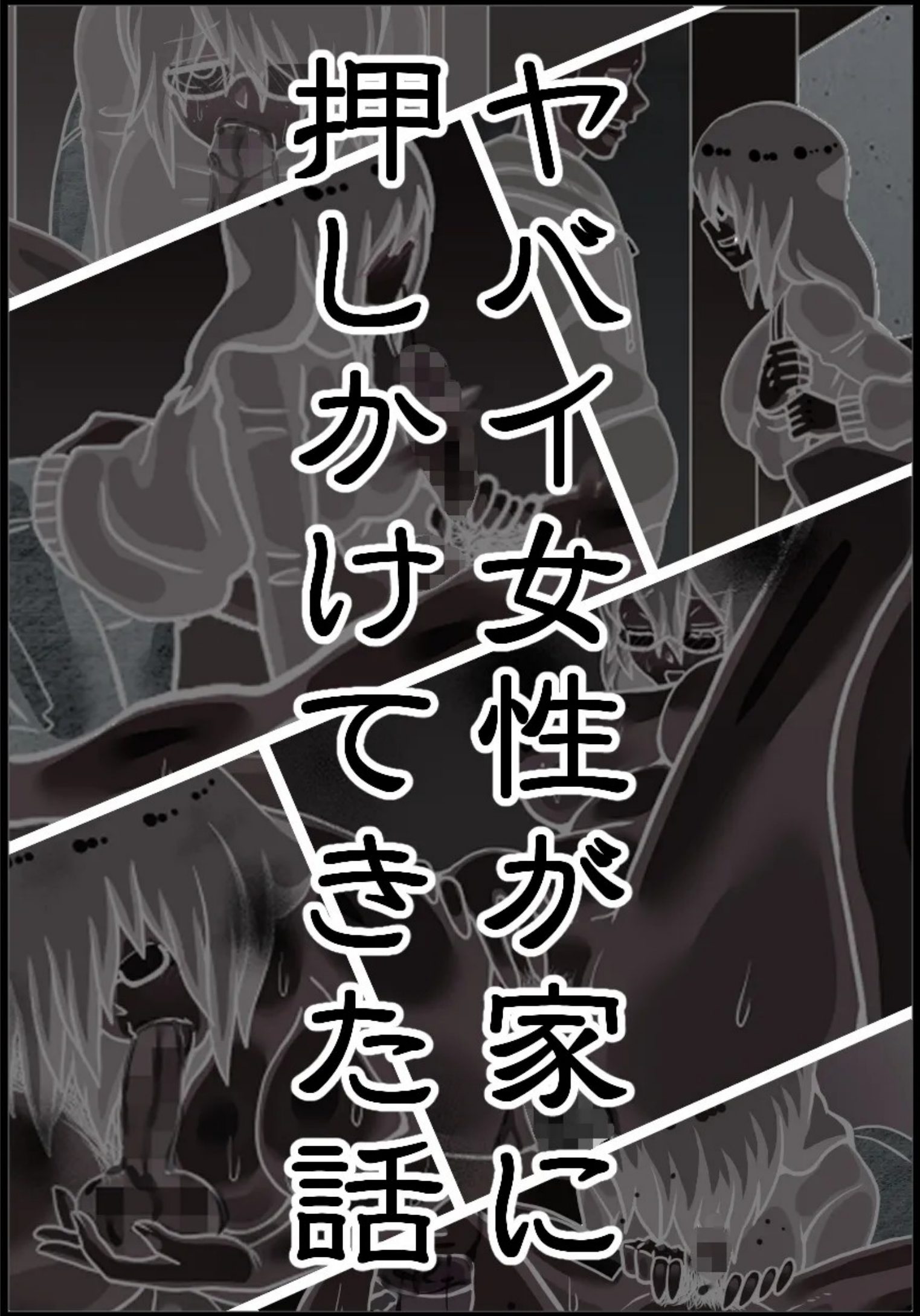
小倉 巴 (29)

- ・マンションで1人暮らし。
- ・人と接しようとするといつも空回りしてしまう。
- ・周囲の人間とうまくいかない為一人で働いている。
- ・一度感情が溢れると抑えがきかなくなる性格。
- ・性格に難ありで幼い頃から友達がいらない為、友人や恋人といったものに憧れている。
- ・恋人がいた経験がないため未だ処女を捨てきれていない。
- ・男性との経験はないが性欲が強い為毎日のように玩具を用いた自慰をしている。
- ・最近同じマンションのある男性が気になっている。

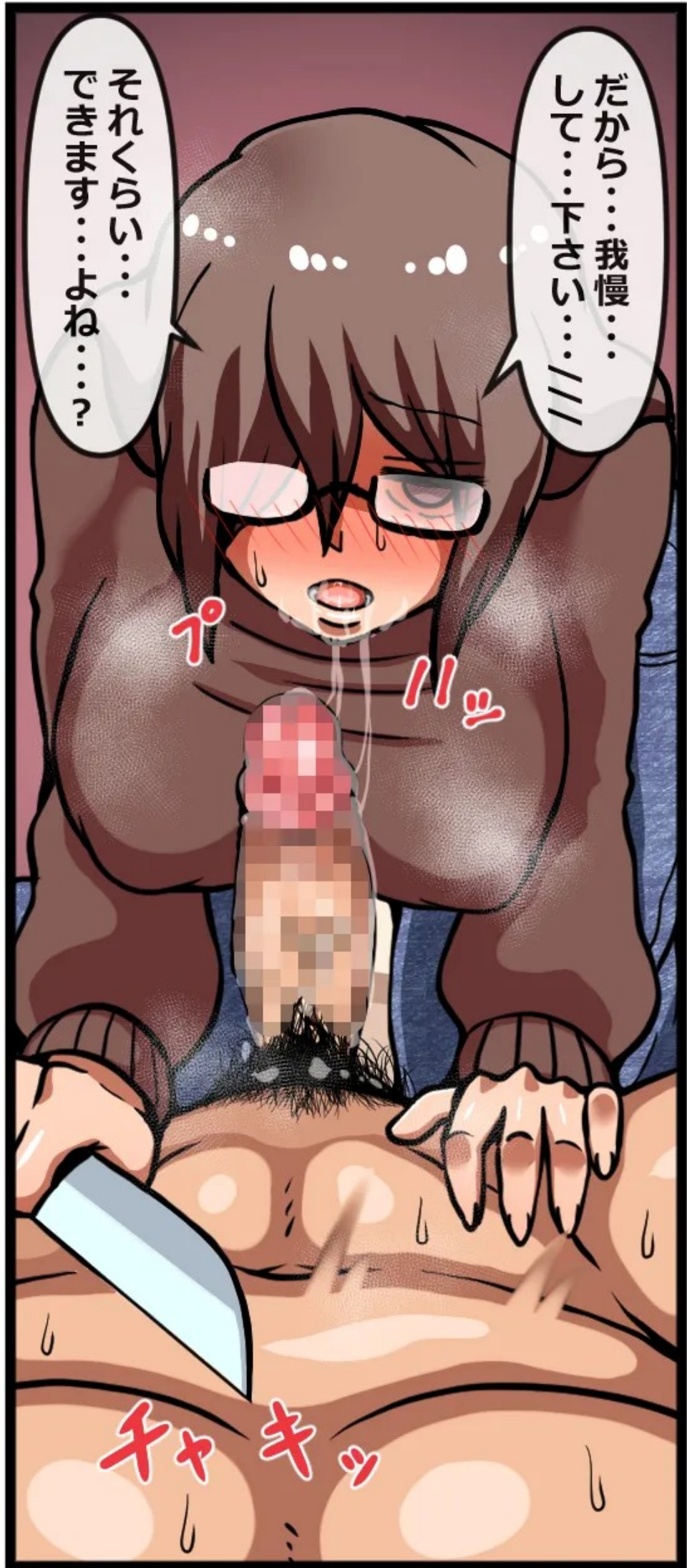




ヤバイ女性が家に
押し付けてきた話







数週間前

ドンポーン

がチャ

………？

えー…つと…

？

………え…

ど…どちう様…
ですかね…？

は…初め…
まして…

あたし…小倉巴
つています…

あなたと同じこのマンションに
住んでる者です…ふへへ…///

あたし…家事のお手伝い…
しに来ちゃい…ました…///

〇〇さん…SNSで家事して
くれる人を募集してましたよね？

モジ

モジ

は…え…SNS…
昨日呟いたアレの…？

いやていうかその前に
何で俺が呟いたって
知ってるんだ…！？

………

………



そうだったんですか…
…ははは…はは…

SNSに写真投稿
するのやめよう…



あと…偶然にも同じマンションの
住民だったので…案外簡単に…

ま…まあ…SNSに投稿
されていた写真とかから…
色々…特定して…



あのお…一応
聞きますけど…
俺達初対面…
ですよ…?

どうやって俺の
住所や名前を…?

はい…
一応…



あ…あの…そういう
ことじゃなくてです…

ちゃんと…自衛の為の道具…
持つてるので…ふへへ…



だ…大丈夫です…
そこところは…
心配しないで下さい…

ふへ…

やっぱり初対面の男女が
同じ部屋に一緒というのは…
一般常識的にちよつと…



いやいや…
それにしても
真に受けて
自宅突つて…

あのお…お気持ちは
嬉しいんですけど…

俺は有名人でも
なんでもないぞ…
参ったな…
どうしよう…



その日から彼女は家事をする為
毎日俺の部屋に訪れるようになった



始めは警戒していたが彼女はほんとにただ家事を
こなし俺の部屋を綺麗にしてくれただけだった



.....
は...はい...そうですね...
人の親切は受け取っておかないと...

こうなったら隙をみて警察に連絡しよう...

お...脅したよ...これ...
頼むから包丁をこっちに向けしないで...



し...心配しないで下さい...
別に悪い事を企んでるとか...
そういう事
じゃないんです...

構いません...
よね...??

ただ純粹に...〇〇さんの
家事のお手伝いができたらって...
ただそれだけなんです...

時折変な行動をすることはあったが、
何かを盗まれたということも無かった

実際のところ彼女に
悪気はないのだと思う

そんな毎日を繰り返す中で
この常識外れな女性……

巴さんともある程度
仲が良くなっていた

数週間後

……………え……………

今度の週末の夜……

出かけるんですか……？

うん……仕事の
打ち合わせがあって……

……それ……本当に
お仕事なんですか……？

え……？

本当は女性の方と会う
予定なんじゃないですか？

は…？ いやいや
仕事ですってば…！

変ですよ…なんで
週末の夜なんですか？

いや…その日に仕事が入
っちゃったんだから
しょうがないでしょ…

そもそもそんなこと巴さん
には関係ないじゃないですか

ニッ

人ッ

やっぱりそうなんだ…
やっぱりそうなんだ…！

あ…あたしはこんなにも…
君に尽くしてるのに…！

そんなあたしを放って他の
女と遊びに行くんだ…！

フル

フル

ちよつ…と待って
巴さん！？ 待って待って！
危ないって！

ビッ

というか本当にただの仕事…

スッ

ってうおわっ！



そうだ…
そうだよ…

最初から…
こうすれば…

良かったんだ…
…ふへ…



巴…さん？

お願いだから…
それ…おろして…？



そうだった…最近は
大人しかったから忘れてた…!!

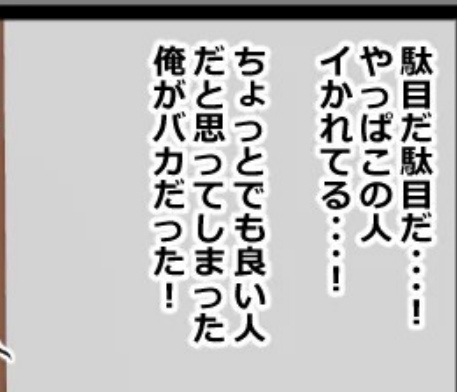
と…巴さん…
落ち着いて…

彼女はSNSから俺の家を探し当てた人だ！
普通じゃないって事忘れてた…!!



このままだと最悪
刺されて…
殺される…!!

な…なんとかして
逃げて警察に…



駄目だ駄目だ…!!
やっぱこの人
イかれてる…!!

ちよっとでも良い人
だと思ってしまった
俺がバカだった！

ガッ

ooooooooooooん

んっ…

んっ…

くっくっ

くっくっ

んっ…

な…なん…だ…

この…感覚…

んむう…

こんな味…
なんだ…

くっくっ…♡

男の人の
ここの…

ふへへ…Hな
味がする…

すんごく…
気持ちいい…

！

お…起きました…？

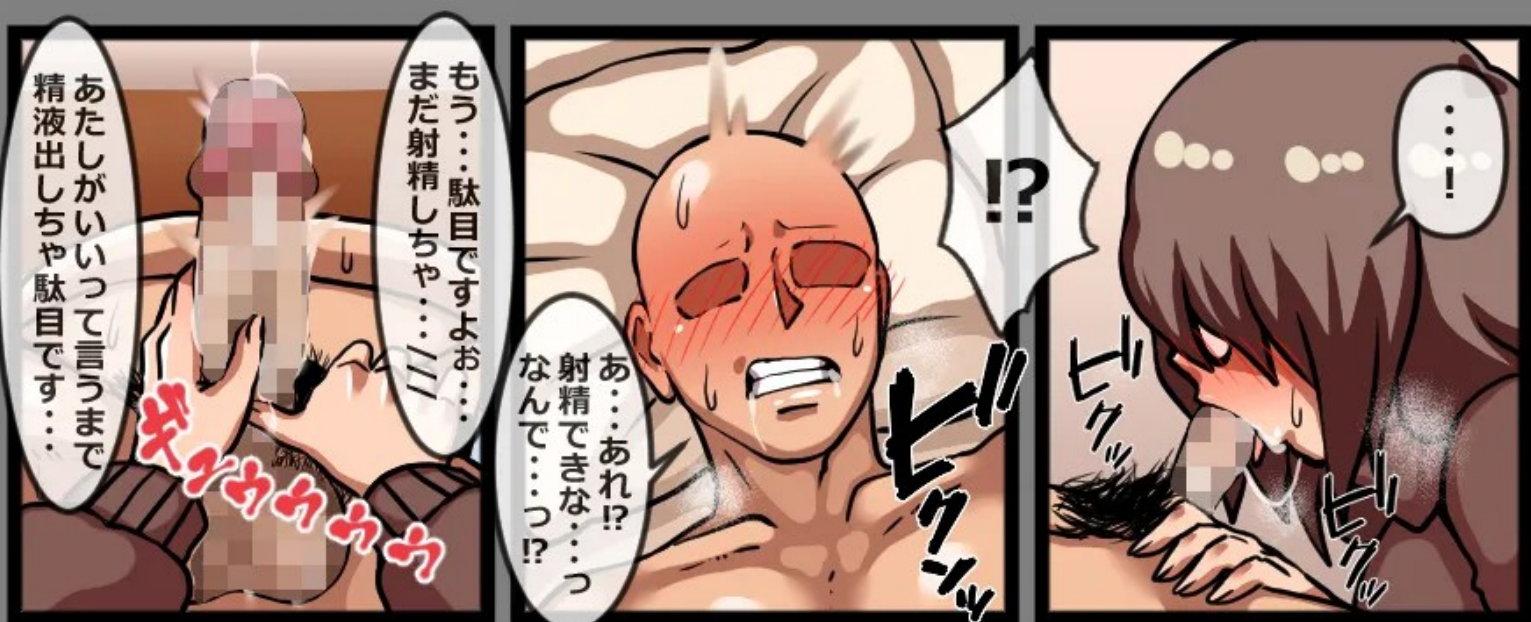
んふ…ご…
ごめんなさい…

ぢゅる…♡

ぢゅる…♡

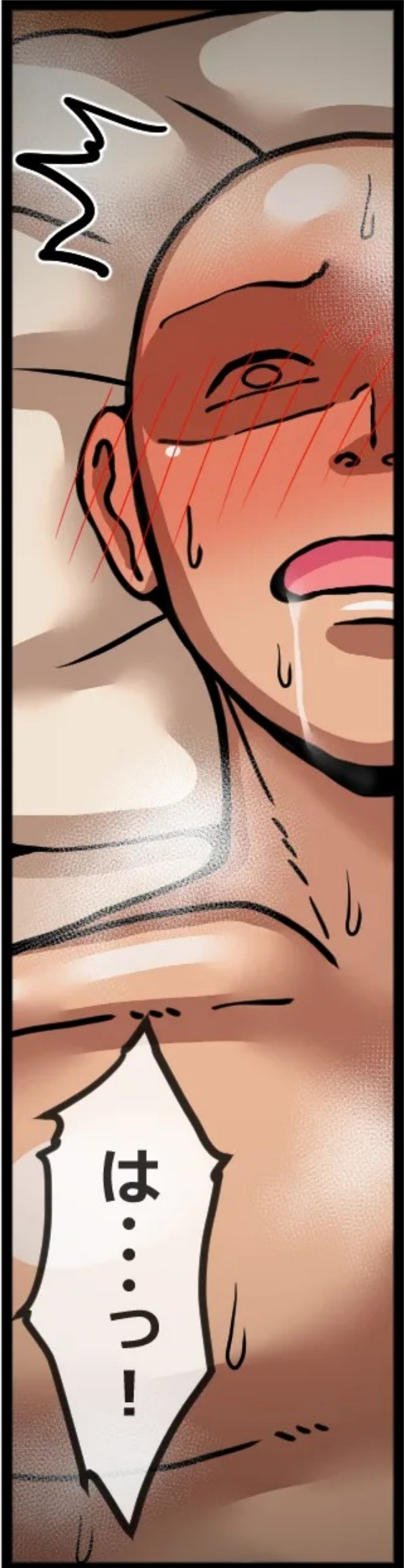
ちよつとだけ…強引な手を使わせて…もらいました…

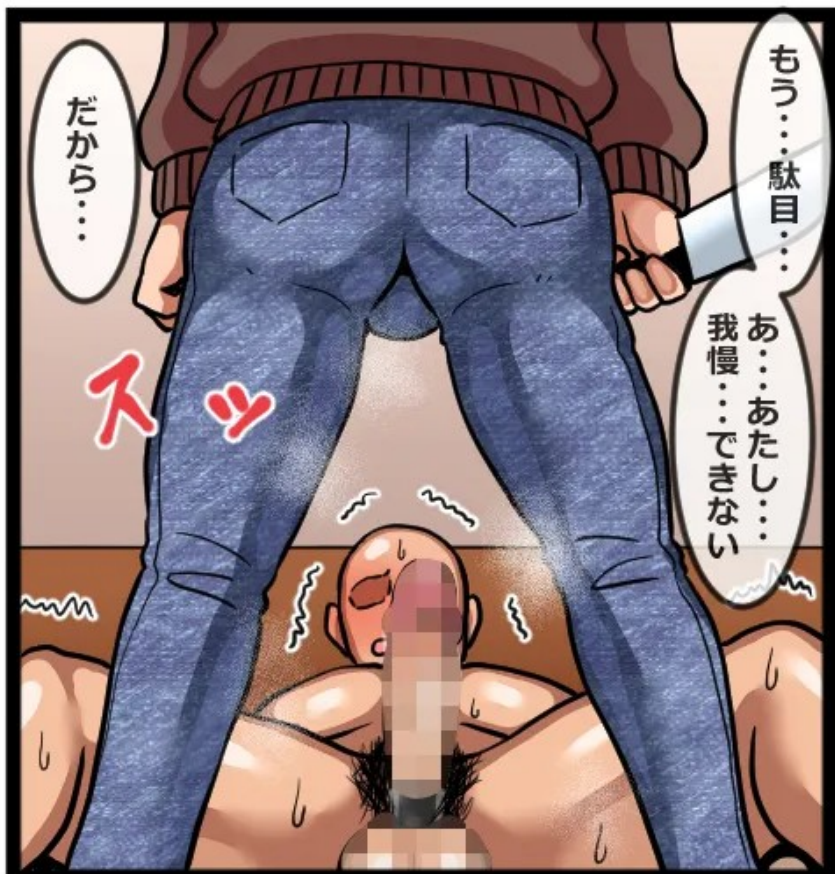
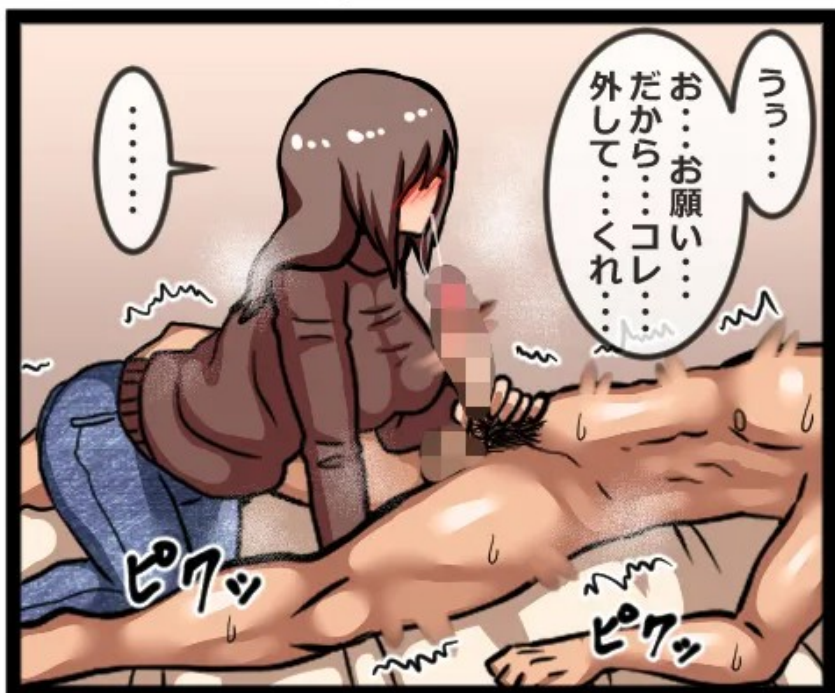
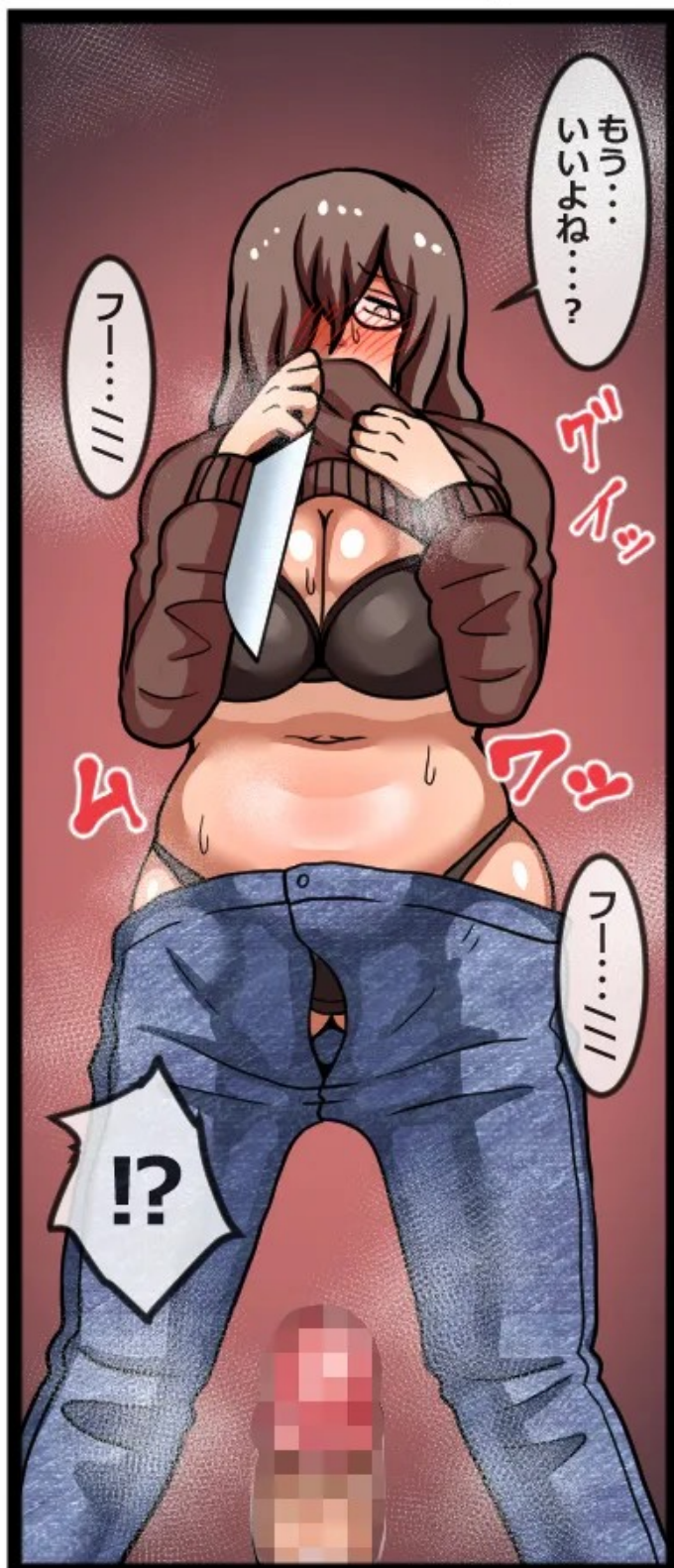
oooooooooooooooo



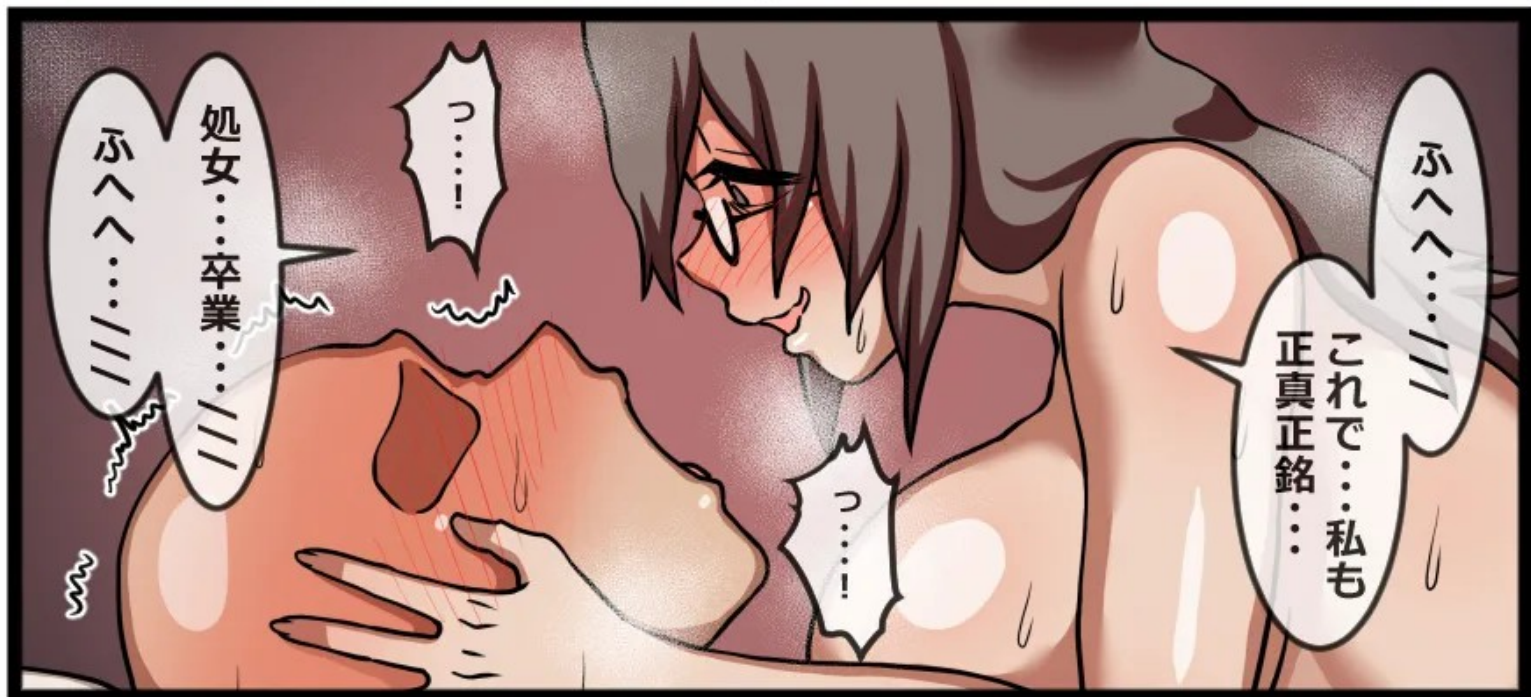
お…思い出した…なんでこんな目に遭っているのか…

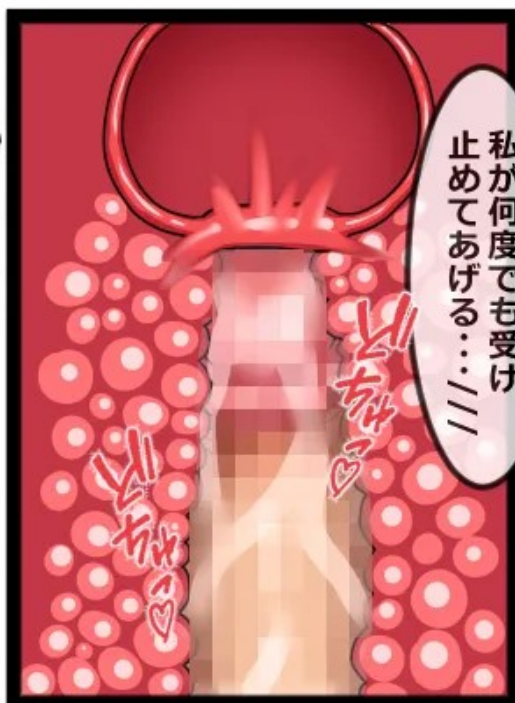
気絶している状態で…やっと思い出した…!!

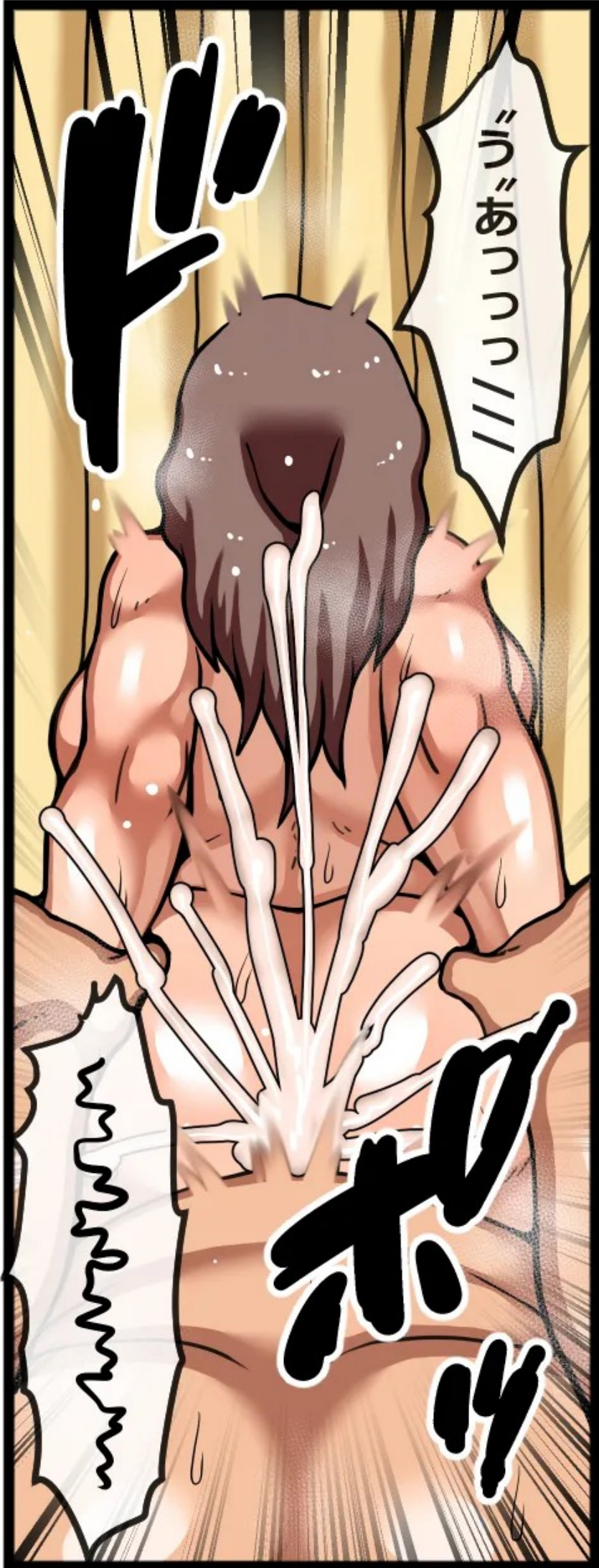














ふへへ…
やった…

やったあ…

やっとこの人と
親密な仲になれたあ

今日の出来事は
隠しカメラで全部
撮影してあるし…

いざとなったら
それで脅せば…



きよ…今日も…
楽しもうね…

正直な話…あの日の
事もあってか巴さんは
ヤバイ人だと思う…



あの日以降も巴さんは
毎日のように家に来た

お…おはよう…

き…昨日あんな
ことがあったのに
今日も来た…

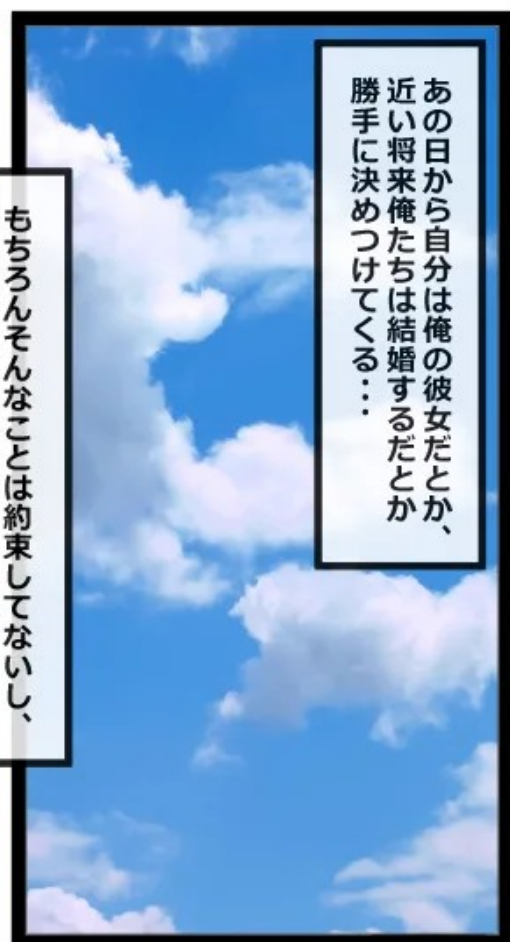
家事も以前と同じように
こなしてくれた…が…



時折見せる病んでる顔や獲物を
狙っているような目も怖い…けど



それに最初に家突き止めてきた
ことも未だに怖いと思っている



あの日から自分は俺の彼女だとか、
近い将来俺たちは結婚するだとか
勝手に決めつけてくる…

もちろんそんなことは約束してないし、
付き合った覚えもない…多分…

いらつしやい……
巴さん………

そんなヤバイ彼女に
惹かれてる自分がある……

がチャ

………
巴さん……？

じゃなかった……
と……巴………

罰として後でお仕置き……
たっぷりしてあげるね………

またさん付けで
呼んじやった……ね

自分の心が徐々に彼女に侵食
されていることに心地よさを
感じている事が一番怖い……

「なあ巴……なんで俺なの？」

「？ どういうこと……？」

「いや……自分で言うのもなんだけど……俺はただの一般人だよ？ なのに何で巴は縁もゆかりもない俺の事を……」

「……別に……理由は単純だよ……？」

「SNSを見てたら偶然私が住んでいるアパート付近の画像が流れてきてね、そのアカウントを確認したらアカウントの中の人偶然にも私と同じマンションに住んでるって事が分かったの」



フキ

フキ

「それで面白そうだったから君の投稿するもの全部見てたんだあ……」

「は……はえ……そうだったんだ……」

「（偶然とはいえ最初から家を持定されてたんだな……）」

「それでね……同じアパートだから……君が外出した時とか……ゴミ出しをする時とか……ずっっと見てたの……」

「ええ……ずっと見てたの……?」



「うん……ずっと見てた……見てたらもっと君の事が気になつてきちゃつて……最初はお友達からつて思つてたんだけど……」

「私……友達の作り方とか……知らない……から……」

「（まあ……こんな性格してたら誰も近づいてこないよなあ……）」

「どうしたらいいのかなつて考えてたら……君のSNSに『誰でもいいから家事してくれる人でもいてくれたらなあ』つて投稿されて……」

「これはチャンスだつて思つて……来ちゃつたつて……感じ？」



「そ……そうだったんだ……はえ……」

「(だとしてもなんで包丁持参して初対面の人に対して包丁向けてきたんだよ……まあ自衛の為とか言ってたけど……)」

「ふへへ……でも神様には感謝しかない……かな……」

「……………?」

「だって友達の人だった私がいきなり結婚を約束した恋人をゲットできたんだから……」

「え……あ……うん……」



「そのことなんだけど……俺ってそんな約束したっけ……？」
「あの時はもう無我夢中であんまり記憶が……」

「約束したよ？」

「……え？」

「約束したよ？」

「……」



「ああ……この感じやばい……」

「(巴のスイッチいれちゃった……)」

『巴さんの処女貰います……』の後に
『結婚を前提に恋人になる』って……』

「約束したよ？」

「……」

「は……ははは……」

「(う……嘘だ……絶対に嘘だ……)」

「約束守ってくれるよね？結婚してくれるよね？
私に赤ちゃん仕込んでくれるんだよね？」



「あの日から毎日私たちHしてるもんね？」

「あの日から毎日私たちキスしてるもんね？」

「あの日から毎日私たち一緒にいるもんね？」

「あの日から……」

「分かった！分かったから！一旦落ち着いて！」

「……………」

「分かってるって……俺は巴と結婚を前提に付き合ってるし……」

「巴のことを……その……愛してる……愛してるよ……」

「だから……落ち着いて……」

「落ち着いて下さい……お願いします（懇願）」



「……………」

「ふ……ふへ……そっかあ……愛してる……かあ」

「うん……分かってくれてるならいいんだあ」

「そうそう……大丈夫だって……」



「(今でも彼女のこういう所はかなり恐ろしいと思う……一度スイッチが入ると命の危機を感じてしまう程に……)」

「(こんな感じでは今まで彼女に友達や恋人ができないのも当然だ……)」

「(でもそれ以外は最高だ。。。あの病んだ状態はともかく俺の事を真剣に愛してくれているし。。。家事もできる。。。)」

「(それに性行為に関しても彼女の要望を

全て受け入れなければならないという条件はあれど基本的にはしてほしい事を何でもしてくれる。。。)」

「(正直言って彼女を恐ろしく思う半面手放したくない。。。)」



「ねえ…もう一回言って…愛してるって…」

「ん…？ ああ…あ…愛してる…」

「ふへへ…」

「わ…私も…君の事…愛してるよ…」

「（人生何があるか分からない…
短い期間でこんな関係になる異性と
めぐり合う事になるとは…）」







はあっ

はあっ

はあっ

はあっ



「うー…駄目だ……」

「やっぱり玩具じゃ物足りない……」

「○○君のあったかいおちんちんじゃないと……」

「○○君のじゃないと気持ちよくイケない……」



「でも……〇〇君まだ帰ってこないし……」

「何時に帰ってくるかも分かんないし……」

「〇〇君が帰ってくるまでもうちよつと……
もうちよつとだけオナニーしてようかな……」

ぶ
ちゅ、





ピリッ

んっ

グ

ズ

ッ

ッ

ズ

ズ



はあっ

あっ

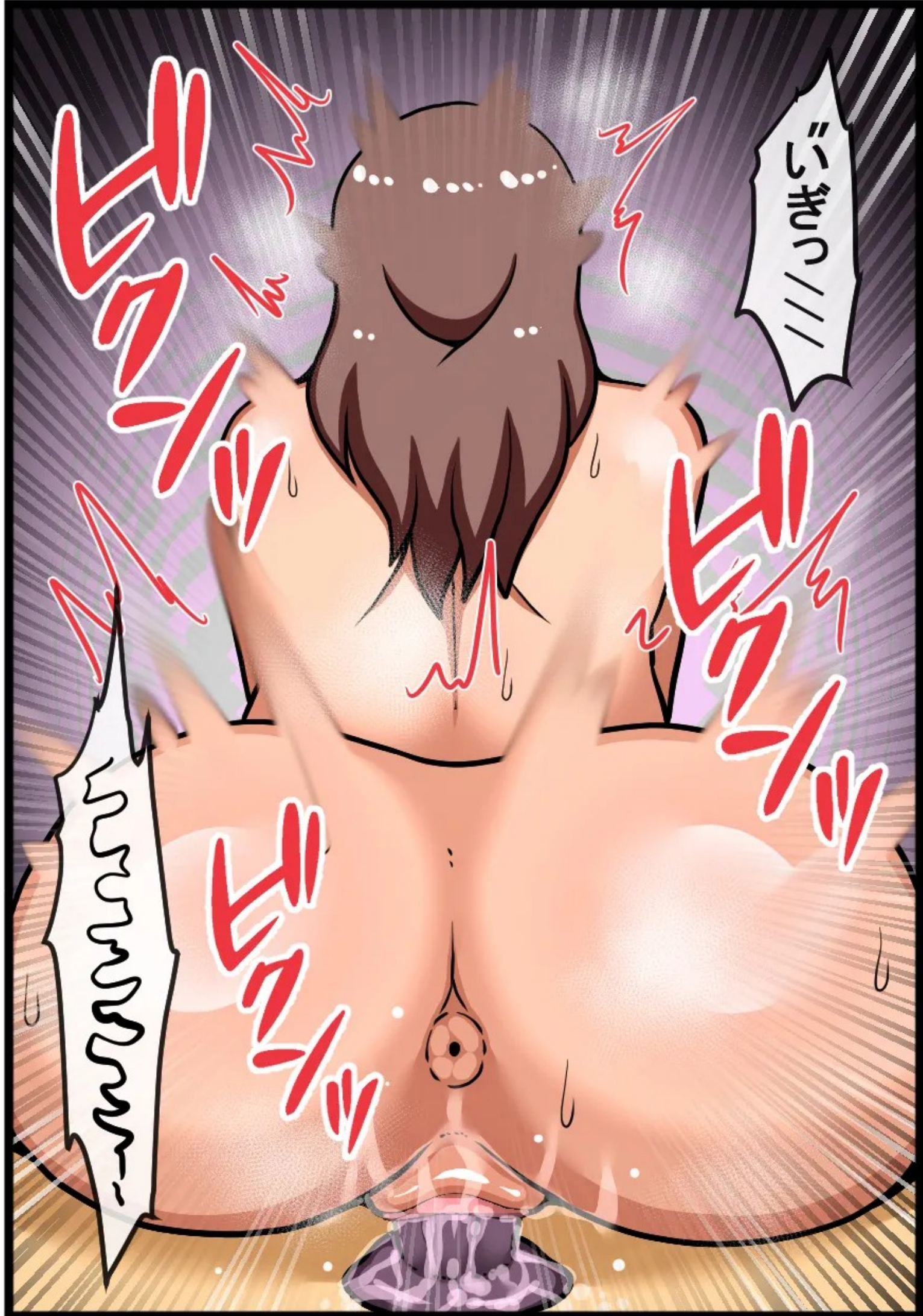
んあっ



あぁっ

あぁっ

はぁっ





はあ…

ムラ

はあ…

ムラ

はあ…

ムラ

はあ…



「……はあ……はあ……はあ……」

「○○君……早く帰ってきてくれないかな……」

「ムラムラが……全然治まんない……」

ムラ

ムラ

ムラ

ムラ

「帰ってきたら……○○君の意志関係
無しに根こそぎ搾り取ってやる……」

